

◎日本国特許庁(JP)

◎特許出願公開

## ◎公開特許公報(A) 昭62-176438

◎Int.Cl.1

A 61 B 10/00  
17/28

識別記号

103  
310

府内整理番号

M-7033-4C  
6761-4C

◎公開 昭和62年(1987)8月3日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

◎発明の名称 生検用鉗子の改良

◎特 願 昭61-128278

◎出 願 昭61(1986)6月4日

優先権主張 ◎1985年6月4日◎フランス(FR)◎8508387

◎發明者 ジャン-マリー シン フランス國 パリ 75116 アブニニー ピクトル ウゴ  
トゲン 45

◎發明者 ブルン ゼタン フランス國 パリ 75655 リュ デュパンダン 23

◎出願人 ジャン-マリー シン フランス國 パリ 75116 アブニニー ピクトル ウゴ  
トゲン 45

◎出願人 ブルン ゼタン フランス國 パリ 75655 リュ デュパンダン 23

◎代理人 弁理士 関根 秀太

## 明細書

## 1. 発明の名称

生検用鉗子の改良

とを特徴とする特許請求の範囲第2項又は第3項に記載の生検用鉗子

(5) 该シースは既立後研摩することを特徴とする特許請求の範囲4項に記載の生検用鉗子

(6) 该コントロール・ワイヤは、自動潤滑タイプの材質から成ることを特徴とする特許請求の範囲1項乃至第5項のいずれかに記載の生検用鉗子

(7) 该自動潤滑タイプの材質がテフロンを含むことを特徴とする特許請求の範囲第5項に記載の生検用鉗子

(8) 该コントロール・ワイヤがらせん状ワイヤの内部シース内に固定されていることを特徴とする特許請求の範囲第1項乃至第7項のいずれかに記載の生検用鉗子

(9) 该内部シースの巻き方向が外部シースの巻き方向とは逆であることを特徴とする特許請求の範囲第8項に記載の生検用鉗子

## 2. 特許請求の範囲

(1) 2個の旋回あご部材用コントロール・ワイヤから成り、該コントロール・ワイヤはステンレススチール製らせん状ワイヤから成る可挠性シース内を挿通している生検用鉗子において、シースの少なくとも一部の外側表面が研摩されなめらかであることを特徴とする生検用鉗子

(2) 该シースの研摩部外側の直徑が該シースの先端で減少していることを特徴とする特許請求の範囲第1項に記載の生検用鉗子

(3) 该シースの外径寸法の減少がゆるやかであることを特徴とする特許請求の範囲第2項に記載の生検用鉗子

(4) 该シースが少くとも一部の接合部材により組立てられる2個又はそれ以上の部材から成るこ

## 特開昭62-176438 (2)

## 3. 発明の詳細な説明

本発明は2個のスプーン又はあご部用のコントロール・ワイヤがステンレススチール製のらせん状ワイヤから成る可換性シース内に挿通している生検用鉗子に関するものである。

公知の生検用鉗子では、シースはステンレススチール製らせん状ワイヤから成り、先端部での可換性を改良する目的では、生検用鉗子によっては、ステンレススチール製部分内で細い直徑を有するシースを主シースに固定させている。この種の鉗子ははんだ付けを2回行わねばならず、シースを正しく挿入するのに余分の手間がかかる。

公知の生検用鉗子の他の欠点は、エンドスコープ内のみぞに挿入したシースの外側表面が環状になっていて凹凸があることである。この種の表面はエンドスコープのみぞの中へシースを挿入する際障害となり、バルブの早期消耗を招き、尖端部の間に肉が入りこむことになる。

上記の状態を避けるために、生検用鉗子の中にシースに例えればテフロン等のフィルムを被覆させシースの可換性を可変とすることも可能である。

先述に特に可換性をもたせることが必要な場合には、本発明によれば直徑の異なる2個又はそれ以上のシースを組立て、組立て前又は好ましくは組立て後に外側表面を研摩して、連結部材を最終処理段階で研摩することもできる。

研摩は費用がかからず、工業的精度で行うことができる。テフロン被覆の場合はこの限りではない。

更に本発明による鉗子の好ましい実施例では、コントロール・ワイヤはテフロンなどの自動滑滑材質のフィルムで被覆される。これにより滑りがよくなり、その結果生検用鉗子の取り扱いが容易となる。更に牽引が容易となり、生検用組立鉗子の寿命を延ばすことができる。

コントロール・ワイヤの滑り性をよくするため、例えば接続などにより該ワイヤをらせん状ワイヤ製シース内に、好ましくは巻きの方向を外側のシースの巻き方向とは逆にして固定することも有効である。

せることがある。こうすれば滑りは完全とはいかなくとも改善されるが、一方ではみぞの中へシースを挿入する際に著しい変形が生じ、このためフィルムが破損しやすく、シースは表面がざらざらになり、肉がたまりやすくなる。

更にシース内のワイヤの沿りは通常良くない。

本発明はかかる公知の生検用鉗子の欠点を改善しようとするものである。この目的を達成するために、本発明による生検用鉗子の主たる特徴の一つによると、シースの少くとも一部を研摩した表面とした。内滑な表面は、外観が美しいばかりではなくシースをエンドスコープのみぞの中へ連続的な動きで挿入することを可能とし、ステンレススチール製のらせん状ワイヤの尖部の間に異物が嵌入するのを防げることができる。

更に、シースの先端の直徑を小さくするように研摩することにより、挿入を妨げるような部分をふやさず、ハンダ付けを2度行うことなしに一これは破損につながる——先端部の可換性を改良することができる。直徑を削減することにより、

このワイヤに囲まれた内部ワイヤは長さ方向に固定され、弧状をなす部位での切削が容易となるが、単純なワイヤではこういう場合にはいかなかつた。

## 4. 図面の簡単な説明

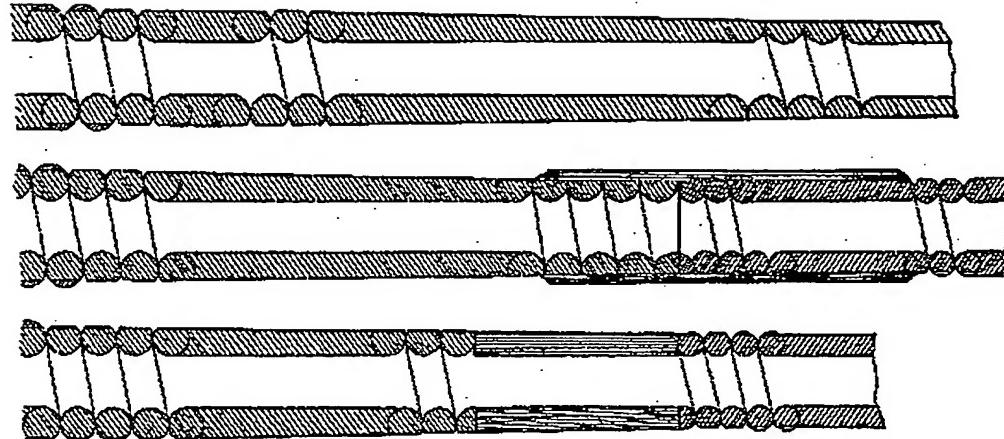
第一回は本発明実施例の一断面図であり、第二回は内部シース内に挿通したコントロール・ワイヤの断面図である。

特許出願代理人弁理士 関根秀太

特開昭62-176438(3)

図面の添書(内容に変更なし)

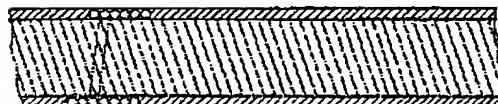
## 第一 図



手取名記付印正札付(方式)  
62年3月19日  
明和6年3月19日

特許庁長官 印

## 第二 図



1. 審査の表示 昭和61年特許審査課128278号

2. 発明の名称 生換用部品の改良

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

名 称 ジャン-マリー シントゲン(他一名)

4. 代理 人

住 所 107 京都府京都市北区山ノ内町2番3号

背山ビル410 電話 408-5281

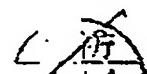
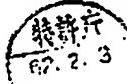
氏 名 (8263) 先田士 四 横舟大

5. 補正命令の日付

起訴日 昭和61年3月5日

発送日 昭和61年3月26日

6. 補正により追加する発明の数 0



特開昭62-176438 (4)

7. 税正の対象

- (1) 代理登を証する面
- (2) 明細書における回面の簡単な説明
- (3) 税正な回面

8. 税正の内容

- (1) 別紙の通り
- (2) 切換書類 6 計第 5 行目「第一回」を「第一回」と記述する
- (3) 別途の通り

9. 添付書類

- (1) 公伝状及び同添文 1通
  - (2) 図面 公伝状と同一の図面 1通
- 回面添付の原本は、公伝状と同一の手稿鉛筆書き（特開昭61-128277）に添付したものと想用します。